

# わが街 Watching



▲防犯上気になる場所などの情報を聞き込みで収集

人が入りやすく・周囲から見えにくい場所は危険！

## 高校生と大学生が地域防犯マップ作成

8月26日、西田川高等学校の生徒14人が、後藤寺商店街周辺の通学路などで現地調査を実施。防犯上危険な場所や安全な場所などを確認して「地域防犯マップ」を作成しました。

これは、地域の防犯対策や自主防犯意識向上のための取り組みで、田川警察署と福岡県立大学が連携して実施。同署生活安全課員と同大学防犯サークルの学生10人が指導役となり、危険個所の見分け方やマップの作成方法などのノウハウを高校生に伝え、学生目線のマップを仕上げました。

生徒会長の中嶋海翔さんは「身近なところにある危険な場所・安全な場所を示して、地域のみなさんに伝えたい」と話しました。

みんなの力で交通事故のないまちへ

## 秋の交通安全県民運動街頭パレード

9月19日、市安全安心まちづくり推進協議会や田川交通安全協会、田川警察署が主催する「秋の交通安全県民運動街頭パレード」が行われ、森山仁田川警察署長や二場公人市長を先頭に、福岡県立大学生や無量寺保育園児など約150人が参加。たがわ情報センターから伊田商店街を通り、風治八幡宮前まで約1kmの道のりを行進しました。この催しは、9月21日～30日で取り組まれる「秋の交通安全県民運動」の一環として行われるパレードで、市民の交通安全の意識を高めるために毎年実施しています。音楽に合わせ、カラフルな旗やポンポンを振りながら行進する子どもたちに、商店主や買い物客から声援が送られました。



▲元気に行進して交通安全県民運動をアピール

仲間の声援を受けて、いざ勝負！

## 伊田校区地区対抗相撲大会

10月5日、伊田小学校で「伊田校区地区対抗相撲大会」が開催されました。

この大会は、昭和33年から続く校区の催しで、今回で62回目。この日は、伊田校区7地区の1～6年生でつくる5チーム総勢45人が参加しました。友人や保護者からの大きな声援を背に、土俵で構える力士の表情は真剣そのもの。何度も繰り返される土俵際の攻防や、大技の逆転勝ちなどに会場は大きく盛り上がり、子どもたちは勝っても負けても仲間や相手をたたえていました。

激戦を制した優勝チームは鉄砲町。続いて番田・下伊田西チームが準優勝、蛭が丘チームが3位に輝きました。



▲じりじりと一進一退。力を込めながら勝機を探ります

オール田川で通学路の子どもを守る

## レッド・ブルー作戦～ALL田川 出動式

9月9日、田川警察署にパトカーや白バイ、市町村や民間の防犯パトロールカーが整列し「レッド・ブルー作戦～ALL田川」の出動式が行われました。

この作戦は、不審者が出没しやすい下校時間帯に車両を使ったパトロールを重点的に実施することで、子どもたちを守る取り組みです。出動式には田川警察署や田川8市町村の教育委員会、ボランティア団体などから関係者約80人が参加し、子どもの安全確保に向けて結束を強めました。

森山田川警察署長は「子どもが道路上で事件に巻き込まれるケースが、全国で起きています。行政・民間ボランティア・警察のオール田川で子どもを守りたい」と話しました。



▲約60台の車両を投入し通学路に目を光らせます

アジア屈指の景観が田川に

## 2019年アジア都市景観賞を受賞

本市と田川広域観光協会（佐渡文夫理事長：小写真右）による地域振興プロジェクト「産業遺産を活かしたまちづくり～炭坑節のふるさと・田川市～」が、2019年アジア都市景観賞を受賞しました。この賞は、国連ハビタット福岡本部など4つの国際団体が主催しており、アジアの人々にとって幸せな生活環境を築くことを目的に他都市の模範となる優れた成果をあげた都市・地域・プロジェクトなどを表彰しています。

本市は炭坑遺産や山本作兵衛コレクション（世界の記憶）などさまざまな地域資源をいかしたまちづくり全体をプロジェクトとして応募。地域の再生・活性化のモデルとなり得るとして評価を受けました。



▲炭坑遺産を活用した代表的な景観「石炭記念公園」

交通死亡事故をなくすため手を携えて

## 田川の「命を守るっ隊」結成式

9月13日、田川警察署で、田川の「命を守るっ隊」結成式が行われ、同署員や交通関係団体など約60人が参加しました。

同署管内における交通事故での死亡者数は、県内の警察署別で最多（8月末時点）。この危機的状況を改善すべく、警察と交通関係団体などが協力して街頭啓発や交通教育などを推進するため「命を守るっ隊」を結成しました。

結成式では、隊のバッジ300個が配られたほか、隊の一員である西田川高等学校合唱部3人が「命の歌」を合唱。最後に全員で拳を上げ、交通死亡事故ゼロに向けて決意を表明しました。



▲「命の歌」アカペラで歌い、隊員を鼓舞する高校生

# わが街 Watching



▲たくさんの趣向を凝らした作品に感心する親子

## 市内の子ども研究者が集結

### 夏休み自由研究展

9月20日～22日、田川市民会館で「第29回夏休み自由研究展」が開かれ、約350人が観覧に訪れました。

この展示会は市教育研究所が主催しており、市内の小中学校の児童・生徒が夏休み期間に取り組んだ研究や工作などの作品275点が展示されました。子どもたちは、理科・社会科・家庭科・国語科などの研究領域から1つを選び「田川市の歴史について」「温まりやすい色と温まりにくい色」「いろんな材料でスライムを作ってみた」などさまざまなタイトルの作品を仕上げました。会場には、子や孫の作品を楽しむ保護者のほか入学を控えた市内外の親子が訪れ、多彩な研究成果を1つひとつじっくりと観覧しました。

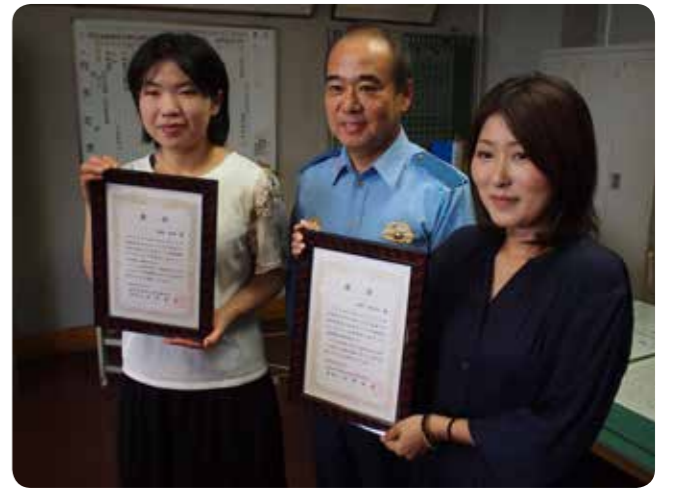
## 命を救った110番通報

### 福岡県警察本部地域部長が市民に感謝状

9月25日、田川警察署で、人命救助に貢献した市民への感謝状贈呈式が行われました。

この感謝状は、雨で増水した市内の川に女性が転落するのを目撃し、110番通報をした長原かなえさんと梶原菜央さんに贈られたもの。2人の素早い通報がなければ、濁流に飲まれて命が失われていた可能性が高く、功労が多大として福岡県警察本部地域部長名での感謝状が贈られました。

森山仁田川警察署長（写真中央）から感謝状を受け取った長原さんは「電話をかけることしかできませんでしたが、助かってよかった」、梶原さんは「助けるのが先か通報が先か迷いましたが、見過ごせなかった」と当時を振り返りました。



▲感謝状を受け取った梶原さん(左)と長原さん(右)

## 「いざ」というときのために

### KBCと防災パートナーシップ協定を締結

10月7日、市役所に九州朝日放送株式会社（KBC）の和氣 靖代表取締役社長など5人が訪れ、本市の二場市長と「防災パートナーシップに関する協定」を締結しました。

この協定は、本市に災害が発生、または発生する恐れがある場合に、KBCと連携して迅速に災害や防災の情報を周知することを目的としています。今後、災害時にはテレビやラジオを通じて情報がいち早く届くようになり、災害予防対策の分野でもKBCの協力を得ることができるようになります。

和氣社長は「住民のみなさんに価値ある情報を届け、もしものときに少しでも被害が小さくなればという思いです」と語りました。



▲協定書を手にする和氣社長(左)と二場市長(右)

## 初体験のラグビーに、トライ!

### 後藤寺中学校でラグビー体験授業

9月30日、後藤寺中学校で、ラグビーの出前授業が行われ全校生徒166人が競技ルールやパスの方法などラグビーの基礎を学びました。

同校は、ラグビーワールドカップ福岡開催推進委員会の招待事業に応募・当選。10月2日のフランス対アメリカ戦の試合観戦に向けて、福岡市のラグビーチーム「コカ・コーラレッドスパークス」の高井明彦コーチングコーディネーターの講師派遣を受けました。高井さんは、各チームの見所やプロ選手の心構えのほか、ボールの投げ方・取り方などを指南。生徒たちは、楕円形のボールの独特な軌道に戸惑いながらも、コツをつかんでパスやフライのキャッチに挑戦しました。



▲輪になってパス回しを練習する生徒たち

## シリーズ 田川市立病院だより

●かわいい情報はHPで検索

田川市立病院 検索  
クリック

### 田川市立病院はどんな病院? ~SNSで病院の雰囲気を紹介~

みなさんは、市立病院にどんな印象を持っていますか。多くの人は、受診した人からの話などを聞いて、印象が決まるのではないのでしょうか。しかし、そのような情報もなく、どんな病院かわからないと不安になりませんか。

当院では、病院の雰囲気を知って、より身近に感じてほしいとの思いでSNSを活用して情報を発信しています。

4月に開設したFacebookでは、当院の取り組みや職員の活動、季節に合った医療情報、田川地域の医療関係イベントなどを紹介。平日はほぼ毎日更新しています。Facebookを登録していない人でも、当院ホームページから見るすることができます。

ぜひ気軽にアクセスして、気になる情報は「いいね!」やシェアをよろしくお願いします。



【入場料無料】市立病院クリスマスロビーコンサート 12月17日(火)15時(市立病院1階ロビー) 東鷹高等学校吹奏楽部出演

病院ボランティア募集! ●問い合わせ 田川市立病院 (☎44-2100)

## スポーツのまちづくりで活性化を

### 福岡経済同友会が意見書を提出

9月24日、福岡経済同友会筑豊地域委員会の廣瀬彰義委員長が市役所を訪れ、まちづくりに関する意見書を二場公人市長に提出しました。

同会は福岡県の経済人約500人で構成する経済団体で、福岡県内の経済発展や地域振興を目的に活動しています。意見書は「あらゆる人が楽しめるスポーツのまちづくりで筑豊地域の活性化を」と題しており、パラスポーツの振興と共生社会の実現、地域資源をいかしたスポーツツーリズムの推進などさまざまな取り組みへの提言が示されています。廣瀬委員長は「2020年を機に取り組みの幅が広がり、筑豊全体でまちづくりが進展することを願っています」と話しました。



▲二場市長(右)に意見書を託す廣瀬委員長(左)